

# 住民主体の介護予防活動の状況

資料4-2

(令和4年3月末)

地域包括支援センター名	担当地域	いきいき百歳体操				何らかの体操を含む活動 (補助金交付団体)		通所型サービスB (住民主体型)		合計	
		週1回以上開催		月2回開催		R2	R3	R2	R3	R2	R3
		R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
健康園地域包括支援センター	第一学区	2	2	0	1	1	1	0	0	7	12
	第四学区	3	3	0	1	1	4	0	0		
地域包括支援センターなえづ	第二学区	5	6	0	0	3	4	0	0	13	15
	斎	2	2	0	0	0	0	0	0		
	黄金	3	3	0	0	0	0	0	0		
地域包括支援センターつくし	第三学区	9	11	0	0	0	0	1	1	14	16
	湯田川	1	1	0	0	0	0	0	0		
	田川	3	3	0	0	0	0	0	0		
永寿荘地域包括支援センター	第五学区	7	7	0	0	1	2	0	0	12	14
	京田	0	1	0	0	0	0	0	0		
	栄	3	3	1	1	0	0	0	0		
地域包括支援センターかたりあい	第六学区	8	11	0	0	2	2	0	0	28	31
	大泉	4	4	1	1	0	0	0	0		
	上郷	4	4	0	0	0	0	1	1		
	三瀬・由良・小堅	5	5	2	2	1	1	0	0		
鶴岡西地域包括支援センター	大山	9	12	0	0	1	1	0	0	13	18
	加茂	1	1	0	0	0	0	0	0		
	湯野浜	1	1	0	0	0	0	0	0		
	西郷	1	3	0	0	0	0	0	0		
地域包括支援センターふじしま	藤島	10	11	3	3	1	1	0	0	14	15
地域包括支援センターはぐる	羽黒	10	11	1	1	0	1	0	0	11	13
地域包括支援センターくしびき	櫛引	8	14	3	4	1	2	1	1	13	21
地域包括支援センターあさひ	朝日	5	5	2	3	1	1	1	1	9	10
地域包括支援センターあつみ	温海	7	8	5	5	3	3	0	0	15	16
計		111	132	18	22	16	23	4	4	149	181

\* 体操など体を動かすことを取り入れた「介護予防活動の場(通いの場)」が住民主体で継続できるように、地域への働きかけを行うなど各包括が市と連携して取り組んでいる。

\* 通いの場では、体操以外にも、栄養や口腔機能向上、認知症予防などフレイル予防の視点で活動できるように各包括でも支援をしている。

\* 新型コロナウイルス感染症予防に配慮した上で活動ができるように啓発している。

## 令和3年度 認知症地域支援体制づくりの状況

(令和4年3月末)

地域包括支援センター名	認知症カフェ(カ所) ※1	認知症サポーター養成講座(回)※2	SOS見守りネットワーク登録者数(人)※3	(再掲)どこシル伝言板登録(人)※4
健樂園地域包括支援センター	1	3	51	4
地域包括支援センターなえづ	3	1	15	4
地域包括支援センターつくし	2	2	15	3
永寿荘地域包括支援センター	1	0	18	2
地域包括支援センターかたりあい	3	4	48	9
鶴岡西地域包括支援センター	1	3	36	4
地域包括支援センターふじしま	2	0	11	0
地域包括支援センターはぐろ	1	1	8	1
地域包括支援センターくしびき	0	5	3	0
地域包括支援センターあさひ	2	2	4	0
地域包括支援センターあつみ	1	0	11	0
合計	17	21	220	27

※1 新型コロナウイルスの感染対策により休止中の認知症カフェも含む

※2 令和3年度実施実績:つるおかオレンジサポートの会(認知症キャラバン・メイト有志のボランティア団体)等の実施も含んだ件数(銀行、郵便局等の広域対象分は除く)

※3※4 令和4年3月末現在、廃止者を除いた登録者数

認知症高齢者の増加に伴い、認知症について理解を深め、認知症の人や家族が思いや情報を共有し合う場づくりを推進することは、今後ますます重要となる。

認知症カフェや認知症サポーター養成講座は、市民やグループホーム、企業などの各団体が運営主体になっているところもあり、地域によって異なる状況である。

各地域包括支援センターには、国の研修を受講し認知症地域支援推進員を兼務している職員がおり、本市および担当エリアの認知症施策の推進のために活動している。